

日本ケーブルテレビ連盟 情報通信制度委員会 委員長インタビュー

ケーブルテレビ業界のサイバーセキュリティ 現状の課題と、強化に向けた戦略

日本ケーブルテレビ連盟の「2030 ケーブルビジョン」は、アクションプラン「ネットワークが変わる」の中でケーブルテレビ業界のサイバーセキュリティ強化の戦略や取り組みを提言している。連盟でアクションプラン「ネットワークが変わる」の実現に向けた取り組みを担当している情報通信制度委員会では、ケーブルテレビ業界全体のサイバーセキュリティの底上げを目指し、情報提供、官民連携の後押し、保険や第三者認証への加入促進などを進めている。同委員会の宮内 隆委員長（連盟 副理事長、株式会社愛媛 CATV 代表取締役社長）に、ケーブルテレビ業界におけるサイバーセキュリティの現状と課題、セキュリティ強化に向けた戦略と取り組みを聞いた。

（取材・構成：渡辺 元・本誌編集長）

アクションプラン「ネットワークが変わる」

—— 最初に、「2030 ケーブルビジョン」のアクションプラン「ネットワークが変わる」に関して、全体のポイント、狙い、戦略を伺います。

宮内 アクションプラン「ネットワークが変わる」は目指すべき姿として、「安全で信頼性の高い地域 NO.1 ネットワークを構築する」ということを掲げています。そのポイントとして、3つのキーワードがあります。1つ目は「オール光化」。2つ目は「地域 IX などのトラフィックの地産地消」。そして3つ